



2025年7月号 (No.27)

多気町立図書館だより

少しの工夫で涼しく過ごす

TEL:0598-38-1133 (多気図書館)

TEL:0598-49-4500 (勢和図書館)

<https://www.town.takikita.jp/library/index.html>



『夏を涼しく!おばあちゃんの知恵袋』 大和出版 (590円)
NPO 法人おばあちゃんの知恵袋の会/著

『みどりのカーテンをつくろう』 香本り子/作 のぐちようこ/絵
あかね書房 (E3)

少しでも涼しく過ごすための知恵や夏バテを防ぐ方法、エアコン節電術など、暑い夏を乗り越えるために手頃な工夫をご紹介します。



多気図書館

7月のカレンダー

☐ : 休館日

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5 おはなし会
6	7	8	9	10	11 おはなし会 おもちゃ	12 おはなし会 ぽけっと
13	14	15	16	17	18 市ちゃん おはなし会	19
20	21	22	23	24	25	26 おはなし会 ぽけっと
27	28	29	30	31 整理日	おはなし会 10:30~	

ブックスタート (のびのび) 7/25(金)10:00~

~夏休みイベント紹介~

- 夏のおたのしみ 2025
8月3日(日) 13:30~16:00
- ぬいぐるみおとまり会&おはなし会
8月8日(金)~8月10日(日)
- ふれあい動物園としゃかんツアー
8月22日(金) 10:00~ [2~5歳]
11:00~ [小学生以上]

※要申込
※詳細はチラシをご覧ください

申込み開始
7/12(土)~

勢和図書館

7月のカレンダー

☐ : 休館日

日	月	火	水	木	金	土
		1	2 おはなし会 (0歳)	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12 おはなし会
13 ほんと カフェ	14	15	16 おはなし会 (1~3歳)	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26 おはなし会
27	28	29	30	31 整理日	おはなし会 10:30~	

~イベント紹介~

- ほんとカフェ&ひとはこ古本市
とき:7月13日(日) 12:00~16:00
12:00~ひとはこ古本市
13:00~カフェスタート
- アドリエブシケ陶芸教室 ※要申込
とき:7月26日(土) 10:00~
参加費:3,500円 今年はお皿を作ります!
※詳しくはチラシをご覧ください

FB・Instagram「多気町立勢和図書館」
が「salwallib」で検索



7月のおすすめ本



『書籍修繕という仕事』 ジェヨン:著 牧野美加:訳 原書房 (022.8ジ)

破れたり背がとれてしまったり。大切な本、読めば読むほど、思い入れが深いほど、どうしても傷んでしまいます。でもその一冊をずっと手元に置いておきたい。大切な人に譲りたい。そんな思いと寄り添い、本を大切に修繕してくれる修繕家のジェヨンさん。ジェヨンさんのもとに、いろいろな思い出が詰まった本がやってきます。

『酒を主食とする人々』 高野秀行:著 本の雑誌社 (294.5月)

なんとも衝撃的なタイトルではありませんか?妊婦でも子どもでも、酒を飲んでいる。本当にそんな民族が存在するのです!
現地の人々の暮らしが、生き生きと描かれていて、面白いハプニングも盛りだくさん。まだまだ知らない文化がたくさんあるのでしょね。世界は広い!!



『雑貨店おやつへようこそ』 トノイケミキ:著 西日本出版社 (673.7ト)

自分の「好き」を詰め込んだお店を作った著者。雑貨店オープンから日々の運営、仕事と家庭の両立などが柔らかな文章で書かれています。
たくさんの人に頼って、手を貸してもらって、地域に根ざしたお店になっていきます。何かを始めたい人には、少しの勇気をもらえる1冊ではないでしょうか。

『黒部源流 山小屋料理人』 やまとけいこ:著 山と溪谷社 (786.1や)

黒部の美師沢小屋で厨房長を担っていた著者が描く、山小屋ならではの厨房事情。貴重な食材を動物にやられる!冷凍庫には入りきらない!食材がダメになってしまう!あれやこれや大変なことばかり!でも、無かったら作ればいい!の精神で山小屋の料理人は今日も様々な工夫をこらしているようです。

7月1日山開き。夏の登山シーズンスタートです。黒部峡谷、行ってみたいくなりますね。



『札幌誕生』 門井慶喜:著 河出書房新社 (F913.6さ)

未知の土地、蝦夷地の開拓。農地の解放。石狩川の治水。そして誇り高きアイヌ民族。彼らがいたからこそ、今の北海道がある!江戸から昭和にかけて、それぞれの思いを強く持ち、北海道に関わった人物たちの物語。

『わだかまってばかり日記』 岩瀬成子:著 理論社 (914.6た)

児童文学作家・岩瀬成子さんが、自身の子ども時代を綴ったエッセイ。
1950年生まれで岩瀬さん。子どもの頃、本当はまだすぐそばに戦争が残っていた。言葉にすることができずわだかまっていた気持ちが、読んできた本の記憶とともに語られます。子どもたちの心に寄り添いたいと思う大人に、ぜひ読んでほしい一冊です。

